



## プロダクティブな社会の主軸としてのエイジング

バロネス サリー・グリーンングロス

ILC グローバル・アライアンス共同理事長/ILC-UK 理事長

### <要 旨>

- 社会は新たな人口構造に適応しなければならない。プロダクティブ・エイジングの成功は、「プロダクティブな社会」においてのみ可能なのである。そこには、雇用・医療・住宅に関する環境整備やエイジングへのグランドデザインなどが含まれる。
- プロダクティブ・エイジングは、就労としての職業や雇用だけでなく、教育・ボランティア活動・アドボカシー・意思決定などあらゆる形態の社会や政治的参加を網羅するものである。
- 高齢者は雇用や地域でのボランティア活動を通じて大きく貢献できる。高齢者を労働市場にとどめておくことは、彼（女）らが健康で活動的、かつプロダクティブであり続けるのに役立つのである。
- 地域の社会資本への継続した貢献は、個人の生きがい、幸福感に大きな価値をもたらすと同時に、軽視されるべきでない経済効果も有している。
- 健康的で活動的なエイジングを促進するためには、定年や就労延長に対する個人や社会の意識変革が必要である。平等人権法では年齢が保護の対象となる特性に含まれており、これによってイギリスにおける年齢差別が減少した。しかし、高齢者の参加を妨げる個別及び制度的バリアが依然として残っており、不況や高い失業率などの経済的要因が追い打ちをかけている。
- イギリスでは、地方自治体とNGOのパートナーシップが、高齢者のケアや住宅供給の重要な要素である。公的・ボランティア・民間セクター間における同様のパートナーシップにより、高齢者サービスの財源や事業の価値を、最大限かつ効率的に社会へ提供できるだろう。

#### バロネス サリー・グリーンングロス:

1935年生まれ。1993年大英帝国勲章(OBE)を受章。

2000年より英国議会上院議員(無所属)として活動しており、特に人権と権利に関する第一人者である。2006年12月には「平等と人権委員会」を設立し、委員長に就任している。

また、認知症、世代間関係など、高齢者に関する5つの部会の議長を務めている。

保守党、労働党ともに高齢問題に関しては、グリーンングロス理事長の意見を求めることが多く、政策決定への影響力には大きなものがある。

1987年から2000年まで、英国を代表する高齢団体エイジ・コンサーン(英国)会長、2000年までロンドンのキングスカレッジのエイジコンサーン老年学研究所共同議長、ユーロリンクの事務局長を務めた。

現在、英国縦断的高齢化調査(ELSA)および新高齢化動態調査(NDA)のアドバイザーグループ代表、年金政策研究所所長、王立健康増進学会名誉副会長も務める。

英国における8つの大学より名誉博士号を授与されている。

ILC-UKは1997年に設立されたが、グリーンングロス女史は当初から理事長を務め、2010年からは、14か国からなるILC-GA(グローバルアライアンス)の共同理事長も務めている。ロバート・バトラー博士亡き後のアライアンスにおける中心的存在として、EUをはじめ世界各地において広範な活動を続けている。